

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「東大阪」

ひがしおおさかしりついきりしょうがっこうほんかん  
東大阪市立石切小学校本館



所在地： 東大阪市中石切町 1-6-50  
最寄駅： 近鉄けいはんな線「新石切」駅より  
徒歩 15分  
見学： 非公開（現在も使用しているため）



正門（筆者が設計した）と校舎



校庭側全景（南面）



2階廊下

木造の小学校で有名なのは長野県松本市にある重要文化財の旧開智小学校だが、昭和初期に建てられた近代建築を代表する小学校は、東大阪にある石切小学校本館を忘れてほしい。

石切小学校敷地の北側にある鉄筋コンクリート造2階建ての校舎は、昭和9年の室戸台風でそれまで建っていた木造校舎が被害を受けたため、昭和11年に建替えられた。設計は、中央電気倶楽部（昭和5年建築、RC造り5階建て）の設計で知られる葛野荘一郎氏が担当した。塔屋の正門（北側）には、当時の校名である「大戸尋常小学校」の校章が現在も掲げられている。また、この校舎の中央南側には明治19年にはじめて専用校舎による小学校が設立された際の半鐘があり、「明治19年尋常小学校」の銘が残されている。

私も小学校3年まで木造校舎に通った思い出があり、石切小学校本館のフローリングの廊下と同じだった。取材した日には、放課後の廊下を小学生が裸足で駆けまわり、何となく安心した。

西洋にあるガレリアが校舎の中央に配置され、学校全体が一つの家を形造った古典的な学校の雰囲気は、石切小学校2階の板張り廊下と天井のアーチ梁の空間にも感じる。特に学習機会という視点は、「すべての人に教育を行うことは、すべての人による教育を意味する。（I.イリイチ）」という言葉あり、その環境づくりも大切なことと思う。

東大阪の多くの学校が、近代化の波で変わり、無機質な工場の壁のようにエアコン配管が外壁にまわりついた建物になってしまったため、今後は、古典的で自然な学校の環境づくりも必要ではないだろうか。（井戸田精一）